

指導理念 「生徒が自分で勉強できるようになること」

特に勉強が苦手な子は、「どうせやってもできないから」「勉強なんてやってもムダ」「メンドウくさい」「そもそもなんで勉強なんかしなきゃならないの？」などの思いを秘めているものだ。

「なぜ、勉強するのか？」という根源的な問いに対して、まつがくの答えは「勉強できるように」と、世界が広がるから。

いわゆる勉強ができないと言われている子どもの多くは、理解する力がないわけではなく、やらないだけ、やり方を知らないだけである場合がほとんどで、「やらない（やり方が間違っている）」↓「テストの点数が下がる」↓「やる気がなくなる」↓「勉強が嫌になる」↓「やらない」という悪循環に陥り、勉強だけでなく他のことにも自信がなくなってしまう。

そのため、一人ひとりの能力や資質に合わせて、まずは「正しい勉強のやり方」を教え、生徒自身を考えながらやらせてみることを大切にしている。それが継続してできるようになり、習慣化すれば、

成績アップという結果もあとからついてくる。

勉強ができるかどうかできないというのとは抽象的な言い方だが、まつがくでは「家庭学習の習慣がついている子ども」を勉強ができると定義している。

「指導の最大の特長は、徹底的に一人ひとりに合わせることでしょね。中学三年生であっても、小学生の学習内容まで遡ることもあります。生徒が難関中高を目指しているのであれば、その合格レベルに合わせて指導します。一人ひとりの生徒にどこまで合わせられるか、その希望をどこまで叶えてあげられるかを最大のテーマとし、最も重視しています」

と、教務指導部の松本伸司（まつもと しんじ）氏は語る。「一番重要なのは生徒にやる気を出させること。私たちはいつも、講師の皆さんに『答えは教えずに、それに到達するためのやり方を教えてください』と伝えていきます。講師研修も、生徒のやる気を最大限引き出すことに重点を置いてやっています」

自尊心を大切にすること

生徒とのコミュニケーションにおいて最も気をつけているのは、相手の自尊心を大切にすること。ただでさえ自信をなくしている子どもは自尊心を傷つけないように、指導を通して達成感を味わい、自信をつけさせるようにしているという。

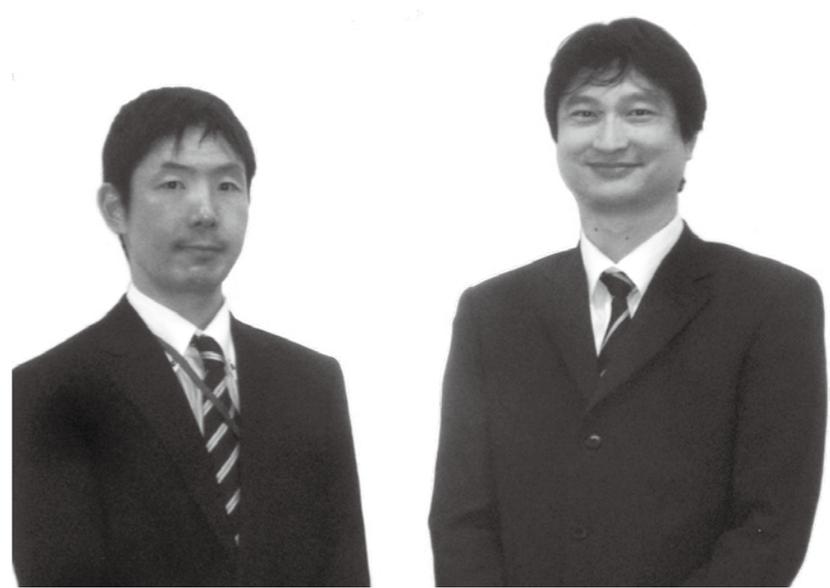
また、塾の指導ではよく、できない子に対しては長所を見つけて褒め、できる子は叱咤激励しようと言われるが、まつがくではできない子にも同じように褒めているという。

「できる子は、学校の先生からも親からも、一〇〇点とって当たり前、もっとできるだろうと過剰な期待を負わされ、意外に褒められた経験を持っていないものです。だからこそ、できる子こそ褒めてあげ、さらにやる気を出して楽しく勉強が続けられるようにしてあげたいですね」と、松本氏にはこやかに語ってくれた。

個別指導塾 まつがく



創立15年で91教室、生徒数4,000名に成長！



教務指導部の波母山敏氏左と松本伸司氏

1995年、長野県松本市で「松本学習センター」として産声をあげた個別指導塾は2006年、「個別指導塾まつがく」と名称を変え、現在に至っている。長野県以外にも札幌、岩手、新潟、埼玉、山梨、福岡に教室展開し、その数九一。生徒数は約四、〇〇〇名にまで成長した。今年の夏期講習の外部生も前年度比一〇%アップというから驚く。その独自の指導方法に迫ってみた。

一人ひとりに合わせた親身な指導が評判を呼ぶ

塾を立ち上げた頃を教務指導部の波母山敏（はもやまさとし）氏はこう振り返る。

「その当時、長野県内には大手の進学塾さんはたくさんあったのですが、勉強が苦手な子のための塾というのはありませんでした。そこで、そういう子どもたちのための個別指導塾を立ち上げたんです。ですから当初は、忘れ物をしたり、言われた宿題ができない、そんな生徒がほとんどでした」

その後、どんなタイプの生徒でも「親身に指導してくれる塾」というクチコミの評判が広がり、様々な学力層の子どもたちが入塾してくるようになったという。

「最初は公民館をお借りして指導していたくらいです。すし、大々的に広告をするというよりも、指導体制など内部を充実させることによって生徒が増えていったと言えるのではないのでしょうか」

まずは「勉強のやり方」を教える独自の指導法

まつがくの指導理念は「生徒が自分で勉強できるようになること」。



進路説明会の様子

『Hey,English! 3』『日本一わかりやすい国語の読解力の授業』『日本一わかりやすい国語の授業～古典・文法・漢字・語句編～』『日本一わかりやすい数学の授業』『日本一わかりやすい歴史の授業』の7冊を出版。学習参考書としては異例のシリーズ累計6万2,000部を突破している。理科についても順次完成する予定という。全国書店にて発売中。

個別指導塾まつがく 編、創拓社出版刊、いずれも1,260円(税込)



まつがく式シリーズ (戻り学習用テキスト)

個別指導塾まつがくが10数年間独自の指導を行ってきた中で得たノウハウを形にした教材で、実際に生徒の指導にあたっている講師陣が執筆している。各教科の基礎を徹底的にトレーニングするための「補助教材」。まつがくでは主に春、夏、冬の個別講習会において使用している。

どの教科も、その科目が苦手な生徒が楽しみながら学習していけるように編集されているのが最大の特長。通常のテキストであれば割愛されるような基礎的な内容からわかりやすく説明し、苦手科目も継続的に自学自習できるように工夫されている。楽しく学習できるので、いつのまにか1冊のテキストを学習し終え、それが達成感を得、自信をつけることにつながっていく。生徒たちからも「楽しく学べて、面白かった。しかも成績もアップし、自信がついた」と評判は上々。

また、首都圏の有名私立高校や大手学習塾でもまつがく式シリーズは使われ、大きな効果をあげているという。まつがく式シリーズは、『Hey,English!』『Hey,English! 2』

89 ◆親常用漢字12年度導入、入試解禁は15年度◆196字が追加され、11月にも告示される改訂常用漢字表(2,136字)について、文部科学省は2012年度から中学と高校で指導を始め、1年生から学習した生徒が受験する15年度の高校・大学入試か

ら追加漢字などの出題を解禁する案をまとめた。難しい漢字を多く含む196字が追加された改訂常用漢字表。文科省は、中学から読みを、高校で書くことを中心に指導する方針を打ち出した。